

令和7年度第3回青森市社会教育委員会議定例会議 会議概要

- 1 日時： 令和8年3月30日（月）13時30分～15時00分
- 2 会場： 青森市教育研修センター 5階 大研修室
- 3 出席者： 棟方 梢議長、石澤 千鶴子委員、泉 裕美子委員、伊藤 尚三委員、
岩森 美代子委員、大鷹 依子委員、小笠原 秀樹委員、澤野 真希委員、
長尾 信委員、三國 航委員

事務局： 教育部長 : 武井 秀雄
理事 : 泉 宏明
教育次長 : 角田 毅
文化学習活動推進課長 : 東條 英哲
中央市民センター主幹 : 松島 綾子
浪岡教育課長 : 鈴木 謙一郎
指導課副参事 : 工藤 哲也
市民図書館長 : 土岐 志保
文化遺産課長 : 児玉 大成

4 次第

案件等

(1) 令和8年度社会教育関係事業（教育委員会所管）について

その他

(1) 人事異動の報告について

5 主な質疑応答、意見等

案件等

(1) 令和8年度社会教育関係事業（教育委員会所管）について

<生涯学習推進員設置事業>

(委員)

- ・生涯学習推進員の配置について、文化学習活動推進課で令和7年から8年にかけて2名から1名に減っている。より効率的な支援を工夫する必要があるが、厳しい状況の中、どのような工夫をされているのか。

(事務局)

- ・現在、文化学習活動推進課配属の生涯学習推進員は、校長先生のOBでコミュニティ・スクールの運営のサポート等を行っている。これまで勤務時間が短い2人体制だったものを令和8年度からは通常職員（会計年度任用職員）と同じ勤務時間の1人体制にしているもので、トータルの勤務時間は減っているが実働は大きく減っているものではない。

＜生涯学習支援事業（中央市民センター）＞

（委員）

- ・ゆるやか・スタートウィークに合わせて実施予定の夏休みや冬休み明けの講座を増やすとのことだが、対象年齢や内容などの具体的な計画を知りたい。
- ・子ども限定や親子限定だけでなく、生涯学習に興味がある大人向けの見学会などの体験型講座を設けてはどうか。

（事務局）

- ・現在、ゆるやか・スタートウィーク中の講座として、小学生を対象とした国際交流、津軽手踊り、ヨガ、ドローン教室などを企画調整している。
- ・体験型講座としては、小学生を対象に日本銀行や消防署、警察、市営バスの見学を検討していた。ご意見があった大人向けの講座については今後の参考にさせていただきたい。

＜少年指導・育成事業＞

（委員）

- ・現在、夜間中学の設立や不登校問題がある中で、スクールソーシャルワーカーの役割がますます重要となっている。子どもの表面的な問題だけでなく、その背景にある家庭環境や保護者の状況まで踏まえた対応が求められているため、支援の範囲や具体的な役割について知りたい。

（事務局）

- ・スクールソーシャルワーカーの主な役割は、家庭内の問題を抱える児童生徒を支援するため、医療・福祉・警察などの関係機関と学校をつなぐコーディネーターである。事案が深刻な場合にも、関係機関が情報を共有し連携できる環境を作り出すことを重視している。

（委員）

- ・本校では、生徒の問題で指導課に依頼したところ、スクールソーシャルワーカーと臨床心理士が連携して対応し、医療機関につなぐことができた。少しずつ状況が改善し、効果が見られている。

（委員）

- ・学校が担うべき役割と、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーが担うべき役割を適切に分担することで、教員の負担軽減にもつながるのではないか。

〈図書資料整備事業, 読書活動推進事業, 館外貸出運営事業〉

(委員)

- ・ 図書館司書による授業支援の具体的な内容について知りたい。

(事務局)

- ・ 図書館司書が各小学校を訪問し、調べ学習などの授業支援を行っている。
- ・ 事前に教員と打ち合わせを行い、授業内容に合わせた支援を行っている。

(委員)

- ・ SNS やインターネットの普及により、本離れが進んでいる中で、絵本や本と触れ合う機会を提供している図書館の持つる意味はすごく大きいと思う。

(委員)

- ・ 高齢者を対象に、認知症の進行を遅らせるため、本を活用し、手で触れ、匂いを感じ、写真を見ることがや読み聞かせなどを行うと（すでにやっているかもしれないが）よいのではないか。

(事務局)

- ・ 図書館利用者は70代以上が1番多く、次に60代が多い。現在、時代小説の展示を長期で行っている。また、健康に関するものの展示を通年行っているがどちらもすごく人気が高い。
- ・ 慶応大学などの研究で、図書の蔵書が多いところは認知症が少ないという報告があることから、認知症対策などのためにどうか、というお話を図書館協議会の委員の方からも意見をいただいた。そこで、福祉部の高齢者支援課と連携し、包括支援センターや認知症カフェなどへ図書の貸出を行うほか、汚してはいけないと思われる心配を避けるため、例えば地方で廃棄予定の図書を差し上げるなどの計画を調整している。

(委員)

- ・ 図書館に来館できない高齢者もいるため、移動図書館などを充実させる必要があると思う。

<その他>

(委員)

- ・教員の多忙化の原因はなにか。それに対して、学校単位で対応すべきか、市全体で対応すべきか教えてほしい。

(事務局)

- ・休日の部活動の指導も一因と考えられるため、土日だけでも、外部指導者や部活動指導員を活用することで、教員の負担軽減を図る取組を進めている。

(委員)

- ・部活動の指導に必要な資格要件により、従来担当していた教員が指導できなくなるケースがあるが、学校側では地域の競技団体等の情報を把握できていない場合があるので、市内のスポーツ団体や受け入れ先を一覧化し、紹介できるような仕組みが必要ではないか。

(委員)

- ・青森市PTA連合会のホームページにおいて、各種クラブの紹介を行っているほか、県教育庁と連携した人材バンク制度の広告等の掲載により指導者情報の発信も行っている。

(委員)

- ・小学校では部活動がなくなり、地域クラブに参加する児童と、活動に参加しない児童との二極化がみられる。
- ・放課後やゆるやか・スタートウィーク時、休日に校庭が子どもたちのよりどころとなっているが、休日に子どもたちが安全に過ごせるようにサポートしてくれる人がいてほしい。

(委員)

- ・教員を志す子どもたちの中には、スポーツを通してサポートしたいと考える者もいるので、学校業務が忙しいから部活動をやらないのではなく、選択できるようにするなど柔軟な方法でやってほしい。
- ・土日の部活動がなくなった時、子どもたちの居場所を確保することが必要である。

(委員)

- ・部活動に関して、地域によっては合同チーム化や廃部が進んでいる。こうした中で、地域としてどのように子どもたちをサポートしていくかがコミュニティ・スクールの中で話題となっている。
- ・今後は学校単位だけでは大変な時代なのではないか。

(委員)

- ・教員の業務負担軽減を進めるにあたり、一律に線引きするのではなく、学校を跨いで指導できるなど柔軟な仕組みも必要ではないだろうか。